

# 「学力評価テスト」の “事前プレテスト”、29年11月実施!

首都圏100会場・5万人規模で、国語／数学／地歴・公民／理科／英語。  
29年度～31年度までの試行結果を検証し、32年度“本実施”目指す!  
「基礎学力テスト」の“試行調査”は29年1月～2月、5,000人規模で実施!

旺文社 教育情報センター 28年8月31日

文科省は28年8月31日、センター試験に替わって32年度から導入される「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」(以下、「学力評価テスト」)の“事前プレテスト”を29年11月に首都圏100会場・5万人規模で行うことなどを発表した。

また、31年度から試行実施される「高等学校基礎学力テスト(仮称)」(以下、「基礎学力テスト」)の“試行調査”は29年1月～2月に5,000人規模で実施される予定。

「学力評価テスト」と「基礎学力テスト」のプレテスト実施の概要は、次のとおりである。

## ○ プレテスト実施の背景

中教審は高校教育、大学教育及び大学入学者選抜の一体的改革に向け、現行のセンター試験を廃止し、大学で学ぶための力のうち、特に「思考力・判断力・表現力」を中心に評価する新たな“共通テスト”として「学力評価テスト」の導入と各大学での活用、高校生の基礎学力の確実な習得に向けた「基礎学力テスト」の導入などを提言した(『高大接続改革答申』:26年12月)。

また、文科省の有識者会議「高大接続システム改革会議」は中教審答申を踏まえ、「学力評価テスト」の在り方や個別大学の入学者選抜改革の推進方策などについての『最終報告』(28年3月)を取りまとめ、実務的な実施体制の更なる検討を求めた。

## 学力評価テスト

### ○ プレテストの目的

文科省は上記のような状況を踏まえ、「学力評価テスト」を円滑に実施・導入するため、記述式の作問・採点を含むテストの信頼性・妥当性についての実証的検証、試験問題の難易度、運営上の問題の検証、トラブル発生時の検証、民間知見の活用等を行うべく、“プレテスト”実施に向けた方策を示した。

### ○ 実施内容

プレテストの実施期間は29年度～31年度の3年間で、実施形式等により、次のように分けて行う。

### 【29年度:事前プレテスト】

- 30年度の大規模実施のための検証も含めたテストを実施。
- \* 受験者数：5万人規模(首都圏100試験場)
- \* 対象者：高校3年生・大学1年生
- \* 対象教科等：国語／数学／地歴・公民／理科／英語
- \* 実施時期：29年11月
- \* 試験問題：試験問題の作成及び出題問題のチェック・分析
- \* 記述式問題：国語と数学の記述式問題の採点システムの構築及び採点マニュアル作成。
- \* テストシステムの構築：志願票、受験票、成績提供等

### 【30年度:プレテスト】

- 実施体制、採点体制等について、「学力評価テスト」と“同様の形式”で実施。
- \* 受験者数：10万人規模
- \* 対象者：高校3年生
- \* 対象教科等：国語／数学／地歴・公民／理科／英語
- \* 実施時期：30年12月

### 【31年度:確認プレテスト】

- 30年度実施を踏まえ、“改善すべき内容”等について実施。
- \* 受験者数、対象者、対象教科、実施時期等：未定

## 基礎学力テスト

### ○ 試行調査の実施内容等

「基礎学力テスト」に係る実証的・専門的検討に資するため、28年度に民間事業者に委託(公募)して、具体的な問題例(CBT含む)の作成を行うとともに、実践研究校の協力を得て、試行的に調査を行う。

- \* 実施時期：29年1月～2月頃(学校が設定した日時)
- \* 受検者数：約5,000人規模(実践研究校の1・2年生)
- \* 対象教科等：国語／数学／英語(4技能測定)
- \* 実施方法：CBT(オンライン方式、外部媒体方式)、CBT及びPBT併用
- \* アンケート調査：生徒＝学習状況、生活習慣等／学校＝生徒の状況、指導状況等
- \* 実践研究校：北海道・山形・石川・静岡・滋賀・大阪・兵庫・島根・岡山・福岡の各教育委員会に委託した合計12校。